

平成18年度研究成果報告会の開催に当たって

上坪 宏道

九州シンクロトロン光研究センター

本日は、九州シンクロトロン光研究センター（以下「SAGA-LS」という。）の平成18年度研究成果報告会を開催したところ、多数のご参加をいただき、誠にありがとうございます。

この報告会は、昨年の2月17日に開所式を執り行いまして、ちょうど1周年を迎えたことを記念するとともに、SAGA-LSの現状を多くの方にご理解いただきたいということで企画したものです。今回は、第1回目ということもあり、招待講演として、世界的にも著名な株式会社日立製作所フェローの外村彰様に「電子波が開く未来の夢—新しい技術が新しい可能性を拓く—」と題した講演をお願いしております。シンクロトロン光に限らず、先端科学技術が私たちの生活に果たす役割と可能性について、分かりやすくお話しいただけるものと思いますので、研究者のモチベーション、あるいは一般の方にとっても科学技術の理解促進の一助になるものと期待しております。

さて、我が国のシンクロトロン光研究施設は、全面的に国の財政的支援を受けた全国共同利用施設あるいは大学の運営する施設が主です。そのため、そこでは、基礎的な学術研究を中心とし、先端産業を支える技術開発などがその主要な目標になっています。それに対し、SAGA-LSは地方自治体が建設し運営する施設であり、他のシンクロトロン光研究施設とは異なった運営、例えば農林水産業や窯業などの地域に密着した産業の振興あるいは環境問題への取り組み、また、地域の先端産業振興なども視野に入れた運営も求められています。ただ、そうした分野にはまだシンクロトロン光の利用例が少なく、具体的な利用イメージがつきにくいのが実情です。したがって、SAGA-LS発の研究成果を数多く、しかも早期に発信していくことで、地域の研究者にシンクロトロン光の有効性を具体例として示していくことが重要だと考えています。その意味で、今回、第1回の研究成果報告会が開催できますことは、地域の研究機関としてスタートラインに立てたものと、ユーザーの皆様をはじめ、関係各位のご尽力に感謝申し上げる次第です。

本日は口頭発表として、大学、公設試、企業のそれぞれの立場から4件、また、ポスター発表の方でも多数のご報告をしていただけることになっております。SAGA-LSでも、いよいよ具体的な研究活動がスタートしている実態をご理解いただければ幸いです。と思っております。

今後とも、設置者である佐賀県とも協力しまして施設設備の充実を図るとともに、企業や大学、国公立研究機関の研究を支援し、あわせてSAGA-LSの研究スタッフ自らの研究活動も活発に行いながら、SAGA-LSが我が国におけるシンクロトロン光研究開発拠点の新しいモデル、すなわち不特定多数の研究者が気軽に利用できる「先端的分析・計測の社会インフラ」となるよう努力したいと考えておりますので、引き続き、皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。